

## 愛知教育大学にある Lowell の書簡と土星の写真

Percival Lowell の書簡については、前に故吉阪俊蔵氏が天文月報第 41 巻第 5 号 (1948 年 5 月) において「ロウエルの手紙」と題して、同氏が保有しておられた書簡 4 通を紹介されたことがある。ところで今般、愛知教育大学 (愛知県刈谷市) にも、Lowell 自筆の書簡 1 通と、恐らく Lowell 天文台の作品だと思われる見事な土星の写真があることを知ったのでご紹介したい。

愛知教育大学の附属図書館に、明治期の優れた日本研究者であったイギリス人 Basil Hall Chamberlain の蔵書の一部が、B.H. Chamberlain 文庫として所蔵されていることは、この方面の研究者には知られていることであるが、Lowell の書簡と土星の写真は、この文庫中の唯一の Lowell の著書である *The Solar System* の中に貼付されている。

書簡は London のホテルの便せん一枚に書かれた短かいもの (写真)。内容は次のように読める。

Dear Basil

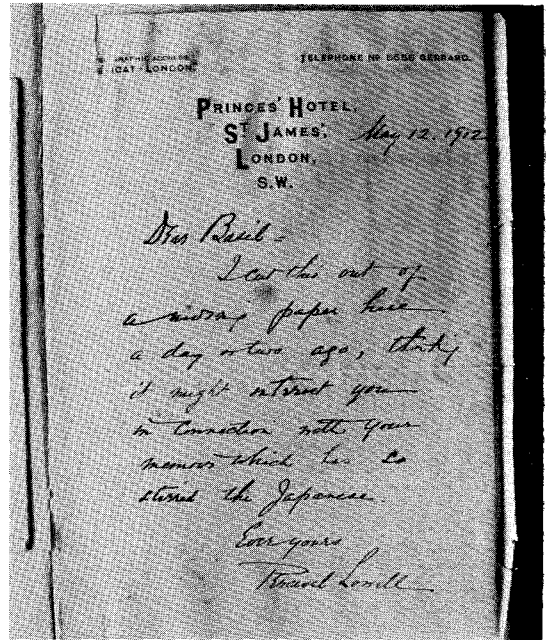
I cut this out of a morning paper here a day or two ago, thinking it might interest you in connection with your memoir which has so stirred the Japanese.

Ever yours

Percival Lowell

封筒もあるが、新聞の切り抜きは見当らない。あて名の Basil とは、言うまでもなくこの蔵書の主であった Basil Hall Chamberlain であり、これは吉阪氏が紹介されたものと同じである。

Chamberlain は、1850 年イギリス生まれ、Lowell より 5 年上である。1873 (明治 6 年) の来日以来、日本語および日本文学の研究を行ない、1886 (明治 19 年) には東京帝国大学文科大学の博言学教師となり、上田万年、芳賀矢一、岡倉由三郎などを教え、古事記の英訳のほか数多くの優れた業績を残している。そして 1911 (明治 44 年) を最後に日本を去り、スイスの Geneva で余生を送った。Lowell との交遊は、1883 (明治 16 年) の Lowell の来日に始まるが、Chamberlain は日本研究の先輩としていろいろ Lowell の面倒を見たようである。例えば、1889 (明治 22 年) の Lowell の二度目の来日の際には、研究に不自由な居留地から解放するため、英吉利法律学校 (中央大学の前身) の講師の職をあっせんしたりしている。Lowell もこのような Chamberlain の好意に応じて、同年 5 月の能登半島穴水までの旅行記 *Note* を Chamberlain に捧げている。



この書簡は、Lowell が旅先の London から、Geneva に隠棲している Chamberlain に送られたものであるが、日本を去ってから既に 20 年近くも経過している Lowell が、なお日本への関心を失っていないのには驚かされる。

土星の写真は、銀色の光沢を帯びたキャビネ判位の印画紙に、大きな土星が二つ写っており、裏に 1915 と記されている。Lowell 天文台で写されたものとはどこにも書かれていないが、前述のような二人の交遊関係、および Lowell の著書に貼付されていること、それに 1915 年当時これだけの土星の写真は簡単には撮り得ないこと、等の事情を勘案すれば、Lowell から送られたものに間違いのないと思われる。

この B.H. Chamberlain 文庫の書籍は、Geneva の Chamberlain がその蔵書を処分する際、当時 Chamberlain の知遇を得ていた故杉浦藤四郎氏が、その一部を譲り受けて日本へ持ち帰り、それを 1958 年杉浦氏の出身である岡崎にあった愛知学芸大学 (愛知教育大学の前身) へ譲渡されたものである。同文庫の中には、Chamberlain の蔵書のほか Chamberlain から杉浦氏へ宛てられた書簡が 311 通あり、その中にも Lowell に言及した箇所が見られるのは興味深いことである。

(防衛施設庁: 佐藤利男)